

私を変えてくれた岡山盲学校

山崎 ひなの

私は岡山盲学校が大好きです。明るくて賑やかな先生方や仲間達がいるからです。今では盲学校が好きな私ですが、入学前は盲学校に全く興味がありませんでした。私は障害者としてみられたくなく、視覚障害者の世界に入るのがいやで、盲学校の見学にきてもストレスで毎回頭痛がする程でした。

私の夢は保育士になることで、高校は保育について学べるコースに入学しました。しかし高校1年生ぐらいの頃に網膜色素変性症だと診断されました。保育士になりたいという思いはありましたが、将来見えなくなる可能性がある私が、子供達の命を預かる責任重大な仕事は出来ないと思い、保育の道は諦めました。保育士にならなくても、将来子育てをするなど、子どもにかかわることはできるかなと思い、あまりマイナスには感じていませんでした。

高校を卒業して盲学校に入学するまでの2年間は、働こうという気持ちはありましたが、特にやりたい事も取りたい資格もありませんでした。周りの人から盲学校や神戸での自立訓練などをすすめられました。行こうという気持ちは全くありませんでした。視覚障害者の世界に入りたくなかったこともあったし、神戸については「めんどくさいなあ」「今は困ってないしな!」などの気持ちはあったからです。

今から思うと入学前の私は、働いて自立しようとする気も無く目が見えなくなると思いたくなく、見えなくなっただけからの生活のことなど将来について深く考えられていなかったと思います。ですが母が強くすすめてくれて、「特にやりたい事もないし、嫌になったら辞めればいいかな！」という軽い気持ちで盲学校に入学しました。

入学前までの盲学校のイメージは静かで暗そうというマイナスなイメージでしたが、入学してみると思っていたイメージとは全く違っていました。先生方や先輩方が明るくいつも盛り上げてくださり、入学式から数日後には盲学校生活が楽しいと思うようになっていました。

盲学校に入学して変わった事がたくさんあります。中でも1番の変化は目の病気に対する不安感が無くなった事です。目が見えなくなると日常生活など1人では何もできなくなったり、笑ったりすることもなくなるんだらうなと思っていました。ですが、見えなくても廊下や階段をすたすた歩いたり、給食を1人で食べたり、面白い事を言って笑わせてくれる先生方の姿を見ていると、大変な事はあっても何もかもできなくなるわけではないんだなと思いました。そこから目の事で悩む事が無くなりました。

また、入学前は白杖を使うことで周りの人から視覚障害者として見られ、自分でも私は視覚障害者なんだなと実感してしまうのが嫌で白杖に対し抵抗感がありましたが、盲学校が好きで盲学校生であることにほこりをもつようになってからは、全くその抵抗感も無くなりました。帰るのが

遅くなった時は、周りの人に分かってもらう為にも白杖を持って歩いています。

そして、私には理療科の教員になるという目標ができました。そのきっかけは、いつも楽しく授業を教えて下さる理療科の先生方の姿を見て、私も楽しく分かりやすく教えられる先生になりたいと思ったからです。しかし、理療科の教員になるにはあん摩の資格だけではなく鍼・灸の資格も必要だと知り、鍼をされるのが苦手な私はいったん諦めていました。それでも先生の薦めもあり、やっぱりなりたいたいと思うようになりました。私は人見知りで人前に出るのが苦手なのですが、教員の仕事は人前に出て分かりやすく説明しなければならないと思うので、少しでも苦手意識を克服しなければならないと思いました。そんなとき、岡山県内の施術所を見学させていただく機会があり、その時に卒業生の先輩から「国家試験に受かることは大前提であり、学校の勉強だけでなく広く興味を持って外に出たり読書をしたりして、コミュニケーション能力などを高めておくことが必要だ」という話を聞き、とても心に響きました。

「今のままじゃだめだな」ということに気付かされ、今までスポーツをすることに興味がありませんでしたが、クライミングイベントに参加したり、今年行われる中四盲体に出場したりすることにしました。皆で何かひとつの事に取り組むことで協調性や達成感が生まれると思うので、良い経験になるなと思いました。

こんな前向きな気持ちにさせてくれた岡山盲学校をもっとたくさんの人達に知ってもらいたいです。私は岡山盲学校の先生方のように生徒の気持ちに寄り添い、視覚障害があっても、希望が与えられる先生になりたいです。そんな先生になれるように、これからも勉強や実技に励み、様々な経験を積んでいけるように頑張ります。